

平成29年度第2回仙北市総合政策審議会 議事要旨

- 日 時 平成29年11月24日（金）14時～15時15分
- 会 場 西木総合開発センター 農林研修室
- 出席委員 佐藤正美会長、中村正孝副会長、門脇健朗委員、能美忠堯委員、
草薨隆委員、新山睦子委員、赤上マツ委員
- 欠席委員 池本敦委員、能美大輔委員
- 市 運藤良克総務部長、小田野直光地方創生・総合戦略室統括監、明平英晃
地方創生・総合戦略室主任、柏谷有紀地方創生・総合戦略室主任
- 事務局 大山肇浩総務部次長兼企画政策課長、畠山徹企画政策課長補佐、
武藤晋企画政策課主事、豊島孝樹企画政策課主事

1. 開会（大山次長）

本日はお忙しいところ、また、雪の降るところお集まりいただき誠にありがとうございます。本日の出席人数は今のところ6名、会議開催の定足数となります過半数に達しておりますので、総合政策審議会条例第6条第3項の規定により、ただいまから第2回総合政策審議会を開催いたします。

2. 会長あいさつ

皆さまこんにちは。一気に冬の景色になってしましまして、皆さまの冬囲いの対策等はお済みでしょうか。私は昨日と一昨日、屋根の雪が滴る中、合羽の中に水が流れるような中で終わらせてきたところです。先の市長選挙では門脇市長が再任されて、季節で言えば秋の実りの体制に入って、よろしいなと思います。今日はまた内容が難しく大変ですけれども、委員の方からお話を伺いながら、政策について進めていきたいと思います。問題はこれが平成28年度の評価であって、評価云々に関わらず今年度は政策が継続されているということを考えながら審議をしていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

3. 総務部長あいさつ

皆さまお疲れ様です。第2回総合政策審議会に出席していただきましてありがとうございます。前回9月中ごろに皆さまにお渡ししました事業等の評価につきまして、お忙しい中評価をいただきましてありがとうございます。本日は皆さまから頂きました評価に基づきまして、評価と検証をしていただくということになっております。中々難しい作業ではございますけれども、皆さまのご協力をいただきましてスムーズに進むようお願いしたいと思います。今日はよろしくお願いたします。

4. 審議案件

○総合戦略の評価について

畠山企画政策課長補佐から書類についての説明。

- ・黒いクリップで留められた資料は委員からいただいた評価のうち、コメントのあったもののみをまとめた。
- ・委員によって○が付いているもの、△が付いているものと評価が分かれている。委員の皆さまにとって馴染みのない事業は評価が難しかったと思われるが、客観的に評価していただいたと認識している。
- ・各委員の評価の中で×が付いたものがあるが、これは取組みを中止または終了してはどうかという評価となっている。一方丸谷丸は発展または継続して事業を進めた方が良いという評価をいただいて
- ・×の評価をいただいてコメントをいただいていない事業については、評価した委員のお考えもあると思われるので、この場で審議していただきたい。
- ・池本委員からは前回欠席したこともあって、説明を受けない段階での評価は厳しかったようで、今回は評価を提出していただけなかった。
- ・門脇委員は相対的などころで評価したいということで、細かい所の評価はされていない。
- ・評価一覧表のうち、-（ハイフン）のついた資料は28年度時点で開始していない事業であり、29年度に開始した事業や今後開始する事業もある。その中でコメントをいただいた分については、今後の政策を推進する上で参考にさせていただきたい。
- ・評価に×がついた事業については、審議会として今後その事業を継続していくべきか、中止するべきなのかといった点を審議いただき、総合的な評価をいただきたい。

【佐藤会長】

評価に×を付けた人の意見を聞きたい、ということですか。なぜ×を付けたか聞きたいということでしょうか。

【畠山課長補佐】

コメントがあるところはわかるのですが、特にコメントの無いところについて聞かせていただければと思います。

【佐藤会長】

何が何でも×では困る、ということですか。そうであれば、×を付けた人があまりにも責任が重くなるのではありませんか。

【畠山課長補佐】

評価的に×という総合評価であれば、そういったことでまとめます。

【佐藤会長】

取り組みについて、28年度は何も反応が無いと、やってもしょうがないんじゃないかと私は捉えて、だったら次の事業に目標を別にしてやったら良いのではないかと×と評価しました。別にその事業が悪いから×としているわけではないので、その辺りを事務局側にも判断していただきたいと思います。私が×を付けたところもありますが、それでも事業は29年度も推進しているという考え方でよろしいですね。

【畠山課長補佐】

はい、そうなります。

【佐藤会長】

「ともだちになろう事業」について、私は×としましたが、これに対して29年度の改善策はどのようになっていますか。

【畠山課長補佐】

28年度の事業評価をいただくのは今回が最初ですので、29年度の事業に意見が反映されて進んでいるということにはなっていません。

【佐藤会長】

改善策については把握していないということですか。

【畠山課長補佐】

担当課でも事業が進んでいる最中ですので、今こちらで途中経過を把握してはいないという状況ですが、「ともだちになろう事業」については担当が居ますので説明させます。

【柏谷主任】

市単独の事業として作った「ライフプランセミナー事業」や「ともだちになろう事業」ですが、特段経費を充てて行っている事業ではなく、包括的に出会い・結婚支援事業の中で独身者の出会いの機会を作ったり、ライフプランを構築するためのセミナーを開催できたらと思っている段階です。秋田県の結婚サポートに登録されているサポーター数名から意見をいただき、年明けには独身男性を対象にしたコミュニケーション講座を、秋田県の事業を活用して開催しようと計画しているところです。

【草薙委員】

欠席した前回の審議会から期間が空いており、自分で書いた意見をもう一度見直していますが、今回はあくまでも継続については皆さん賛成でしょうけれども、問題なのは×の

付いた事業について、本当にやめるのか続けるのかが問題になってくるのでしょうか。

【畠山課長補佐】

×の付いていない事業についても、こういった観点から進めてほしいといったご指摘があればいただきたいところです。もちろんコメントをいただいたところは反映して担当に返しますが、このようにした方が良いといったアドバイス等があれば非常に助かります。ただ、皆様は事業の詳細までは関係していないところもあると思いますので、そこは客観的にご自分の知り得る情報でしか判断できないかと思います。そこでもっと深く事業の内容を聞きたいということであれば、今日は答えられる範囲で、ということになりますが、お答えいたします。

【新山委員】

×となっている事業について、別の分け方をすると○となるものもあります。例えば子育て等について、私には高校1年から22歳の年齢の子どもがいて、様々な面で関係がある状態で生活しています。資料の内容だけで見ると×の評価を付けていますが、皆さんが○や◎をつけていることを考えれば、平均して○となってしまうことがあると思います。

【佐藤会長】

私が×を付けた事業については、KPIが0.0%では望みが無いのかなと思って評価したのですが、その点についてはどうですか。

【柏谷主任】

実際行われていなかった事業なので、KPIが0.0%となってしまうのはその通りなのですが、その事業は単独で行っているものではなく市の事業科目としての「出会い・結婚支援事業」の一環ですので、全体で見れば「出会い・結婚支援事業」は進めているということを含み取っていただけたらと思います。

【佐藤会長】

今年はどうのような事業を行ったのですか。

【柏谷主任】

今年は、市内に8名ほどいる結婚サポーターによる、親御さんや独身者を対象とした結婚に関する相談を受け付ける会を始めています。今年から始めたので知っている人は少ないと思いますし、実績もまだ上がってはいませんが、来年度も継続していきたいです。また、独身者のためのスキルアップ講座は、県と共同で開催していけたらと思います。

KPIはイベント回数になっていますが、市が関わらず民間が独自で行っているものもあ

ります。市としてはそういったものはカウントしておりませんが、来年度はそれらのイベントに対し補助金を出すことを検討しています。

【大山次長】

実際には未実施の事業であり、来年から動き出すので、若干成果は出てくると思います。

【佐藤会長】

まあ、頑張ってくださいということで、ここは○にしたいと思います。

【中村副会長】

私も一つ×を付けた事業があります。私たちは与えられた文面からしか判断できません。実態や現場の課題などがどうなっているかはほとんどわからないのです。「福祉医療費」の資料を見て、PDCAのActionが空欄になっていました。私はこの取組みが終了したのかなと判断し、それならば私が○や△を付ける筋合いはないなと思い、そのように評価しました。2時間の審議会の中で膨大な数の資料を上手く審議できるのかなと思います。また、こういった資料を貰って、実態がほとんど分からない状態で色々とコメントを書いた訳ですが、私共が書いたものは実態にそぐわないものが多かったかと思います。時間的な制約がとても大きくて、結果としてKPIに頼らざるを得ない、そういうわけで×としました。

【畠山課長補佐】

こちらの方でも説明が足りなかったと思いますが、中学生までの福祉医療については市が単独でやっていたものを県が今後主導することになっていました。評価方法につきましては、2時間でこの量を審議するのは厳しいと思いますので、来年度以降の評価方法については考え直したいと思います。

【新山委員】

私が×を付けている事業は、正直市が関与しなくてもいいんじゃないかなと思えるようなところもありますし、市ではなく県でやりたい人がやった方が上手くいくようなものがありました。資料の中にも重複している事業もたくさんあるので、そういった点でも×と評価していました。△の評価も、あまりにも内容が曖昧すぎる事業にしました。子どもたちと相談したとき、ともだち事業に参加するような人は参加しなくても友達を見つけられる人間であって、事業をやっても参加しない人、参加したがらない人は最後まで残ってしまう。結局やっても無駄なものは無駄ではないか、という意見が出ました。

【佐藤会長】

意見集に書いてあるページと私たちが記述したページが合致しなくて、何を言っている

のか把握できないんですけれども、何とすれば良いですか。

【畠山課長補佐】

こちらで言うページ数とは、意見集の方のページを指しております。

【佐藤会長】

実際的にはこれが何の内容かっていうページがわからないと。何について考えれば良いのか見極められないから、話が追って行けない。例えば、61ページに「集まれアーティストアートビレッジ事業」とありますけれども、私たちが提出したものの何ページなのかわからないと今どこの話をしているのかわからないんですよ。ここで言うアーティストとは誰のことを指しているのですか。例えば音楽関係や美術関係が考えられますけれども、言葉で「アーティスト」と言っても、何のことなのか一見わからない。

【柏谷主任】

まだ検討段階で内容はほとんど絞り切れていません。わらび座さんと仙北市で総括連携協定を結んでいます。わらび座さんと一緒にアーティストと呼べるような人たちが仙北市に移住・定住してくれないかなと言う考えで総合戦略が創られました。実際のところ目標に合った事業ができるのか、効果に移住・定住に結び付けられるかという点で事業の構築に悩んでいます。31年度までに事業内容を検討した上で実施できたらと思います。例えば絵を描く人なのか、何かを創作する人なのか、演劇をする人なのか、といったところでターゲットを絞り切れず、今のところは全体を見ているという状態です。

【佐藤会長】

これは×と評価されてもしょうがないということですね。では62ページの「定住対策促進事業」はどうか。

【柏谷主任】

定住対策推進は平成19年ころから始まった事業で、仙北市は他の市に比べると早くから移住・定住に取り組んでいました。ただ、五城目や鹿角のようにより力を入れている自治体が目立ってしまっている現状です。空き家を活用した移住・定住については継続しておりますが、市外の方が空き家を利用して住みたいという連絡はあまり多くなく、むしろ市内在住の家を探している方が活用されています。また、首都圏で行われている移住フェアに参加したり、移住者に対する補助金を出すといったことをこの事業で行っています。

【佐藤会長】

その下の「まるごと仙北市民体験事業」についてはどうか。

【柏谷主任】

2年前に国の交付金が充当されて事業を行いました。仙北市に観光目的で体験されては移住に繋がらないということで、農業に従事し空き家に滞在してもらうという「移住」をテーマにしました。色々と周知はしたものの、1人しか活用せず、活用された方からも「農業に従事して大変だった」といった感想をいただきました。翌年度からは市単体の予算で事業を行うこととなり、前年度の結果と条件を緩和してしまうと、結局観光目的となってしまうのではないかと懸念から、翌年以降は市の事業としては行っておりません。県の事業との抱き合わせで茅葺体験等を実施しましたが、その翌年からは県の事業も廃止となり市単独では行っておりません。結局、仙北市は観光の町であるので自ら足を運んでもらい、町の良さに気付いて移住してもらった方が良いのではないかと結論に至り、事業を行っていないのでKPIが0.0%となりました。

【小田野統括監】

補足させていただきますと、JR秋田支社様と連携して農業体験事業ができないかと話し合っているところです。「通農」というスタンスで首都圏から年3~4回、季節に合わせて農業体験をしてもらうことを計画しており、そういった意味ではこの事業に当てはまるのかなと思います。現在は農林部の方でどの農家からご協力をいただけるか調べてもらっているところです。

【草薨副会長】

私は〇で良いと思います。いずれにしても本格的に始まっていないということですね。体験してもらうということは良いことだと思います。短期的な数値ではなく、ある程度のスパンの中で考えるということも結論的には良いことなのかなと思います。

【佐藤会長】

今回、旅行に関する管理者試験に十数人の合格者が出たということなので、道が開けてきたように思えますが、部長さんいかがですか。

【運藤部長】

12人が受験して10人が合格し、その中には農家民宿さんの方にもおりますので、旅行商品の取り扱いや農業体験にも資格が使えていけるのではないかと期待しています。

【佐藤会長】

新幹線を利用して日帰りでも年4回農業体験をしてもらうというのは実際どうなのですかね、門脇さん。

【門脇委員】

話の中身がさっぱりわからない。これで評価しろって言われてもパッと見ても中身を眺めるだけになってしまって評価することができない。

【新山委員】

将来的に定住に持って行きたいのであれば対象とする年代を。JRさんは幅広い年齢層をターゲットにしているかもしれませんが、定住ということになれば、ある程度年齢層が絞り込まれると思うので、仙北市はこれくらいの年齢の人を受け入れるといった提言を出していてもいいんじゃないでしょうか。あまり年齢幅が広いと受け入れる側に厄介事が増えてしまう気がします。農業体験をして定住も考えてとなるのか、ただ単に農業体験がしたいだけなのか、というところはある程度線引きした方が良いのではないのでしょうか。

【佐藤会長】

29年度の予算編成ですけれども、重要な政策として移住・定住対策が市長から謳われていますが、それと関わるこの事業についてはまだまだといったところですかね。

【赤上委員】

体験が必要だと先程から言われていますが、体験と言えば農業の話ばかり出ているような気がします。体験のメニューの見直しや、数ある体験の中から選択できるというような、そういった見直しも少ししてもらいたいです。定住の話ですが、私の家の隣に家を建てて定住した人がいます。その人は移住して2年目ですけれども、今はすっかり安定しています。なぜ安定したのかというと、土地柄と人間関係が非常に面倒見が良いということから救われて、非常に居心地が良く心を動かし始めているというような気がします。地域の行事などにも積極的に参加し、自分は地域の住民の一人と実感しているようです。同時に、地域力と言うものも並行してやっていかないと、その人は魅力を感じないで出て行ってしまうという恐れもある気がします。行政も地域も含めて移住者を包み込むような体制作りが必要なんじゃないかなと感じます。

【佐藤会長】

他に×のところでは何か意見はありますか。

【中村副会長】

×だからダメだとか、◎だから良いという問題でもないでしょう。×でもやらなければならぬものはやる、◎でもほったらかしてもいいというわけではないんじゃないかと思えます。一般論として、KPIの数字が低いからと言って、長期的にやるべき施策が短時間で判断されてボツになってしまう恐れもあるのではないかと思います。今やっている手法

がはたして最適かどうか検証しなければやめることもできないだろうし、進むこともできないと思うんですね。施策を別の方向に持って行く、あるいは施策同士を組み合わせるといったことをしないと進展しないのではないかと思いますね。先々のことを考えた上で作られた施策なのでしょうから、本当に廃止すべきなのかを突き詰めてから廃合を検討すべきではないかと思います。

【草薨委員】

現状でできている事業、できていない事業様々あると思うので、やってみて、検証して、時間をかけてから協議すべきかと思います。我々は色々な意見を出しているわけですが、これらについて事務局から担当課へ反映しているのでしょうか。

【畠山課長補佐】

総合戦略については今回が初の検証だったので、今回いただいた意見を反映するのはこれからになります。意見を反映した上である程度の方向転換も必要になると思います。

【草薨委員】

事業が始まっていきなり膨大な量の事業を判定するのもなかなか難しい。

【大山次長】

初めての取組みでもありましたし、これから今回の意見が反映されて来年度の時点でこのような変化があった、という話も出てくるかと思います。一回目の事業なので分かりづらくて誠に申し訳ありません。

【佐藤会長】

私は教育委員会の審議会にも参加しましたが、そこでは一人当たりの担当する分野がある程度決められていました。今回のように全員で全体を評価するというやり方は、今後改善していく必要があると思いますが、門脇さんはいかがですか。

【門脇委員】

私らは基本計画を見てそれぞれどういう意見を持ったのかを聞かれた時に書き始めたけれども、実績を評価するとなれば甚大な仕事になる。○や◎をつけるやり方では判断付かないのではないかと。取組みの現状に対する意見は書いてみたが、本当に評価するというのであればじっくり時間をかけないと。皆さんも評価には難儀したと思うけれども、我々は内情をよく知らないで評価を丸投げされている。色々な目標が書かれているがさっぱりわからない。

【佐藤会長】

能美さんはいかがですか。

【能美委員】

私自身はこれを意見を申し上げるのではなく、この事業はいいんじゃないか、と評価する程度のものだと思っていました。この事業をくみ上げて行って、やるべきかやらないべきかという判断をしたわけではないですよ。あの資料でできるもんじゃないと思いますね。もしやるとすれば、もう少し事業の中身を掘り下げなければ意見なんか出ませんよ。

農業体験の話ですが、西木町の農家民宿の方々は大した農業体験をしているわけではないんです。長芋を掘れと言っても（素人に）出来るわけがないので、長芋はこういう芋だと見せるといったことも一つの農業体験なのではないかなと思います。

【佐藤会長】

今回の評価は各担当課に通知するわけですね。今後のことについて、今回の委員のお話を聞いて、事務局サイドではどういった方法が良いと思いますか。

【畠山課長補佐】

いきなり各事業を提示して評価していただくというのは難しいということがよくわかりました。例えば、基本目標毎に掲げる指標をわかりやすく明示して、各事業の説明を簡単にしたほうが良いのかなと思います。事業一つ一つに評価を貰うというよりは、基本目標に対してどのような感じだったかという総合的な判断をいただくと。事業に対するコメントは審議の中で出された意見を反映するといったやり方にした方がいいのかなとは思いません。

【佐藤会長】

そもそもどういう発想でこの審議会を始めたのですか。

【畠山課長補佐】

総合戦略については、国の地方創生関係の必須事項となっているもので、KPIの指標に対する達成度を評価いただくことになっているので、審議会の皆様をお願いしたというわけです。総合的な判断についてはもちろんこちらでも判断するのですが、皆様からは色々とコメントをいただけますので、そういった点にフィードバックをかけていきたいと思っています。

【中村副委員長】

もっと大きな括りの中で話した方が良いかもしれませんね。細かい部分ではわからない

か一面的なことしか見えてこない。大きい括りの中に事業を散りばめてお互いの意見の中で良い事業を拾い上げるというのも一つの手法かと思います。

【赤上委員】

最初に資料をいただいた時、よくもこれだけの事業をやっているなど、一市民として驚きました。私は単純に、一つ一つの資料を見せて頂きながら、自分で感付いたことをコメントに書いて、評価はコメントをいただいた上で全体的に皆で行うものだと思っていました。KPIも参照して数字が出ている場合は継続するべきだろうなどと思っていましたが、はっきり言って難しい仕事でした。深いところもわからず責任も伴うしどうすればいいのかと悩んでいます。

【佐藤会長】

さて、総合的に委員の皆様からご意見をいただきましたが、部長さんはいかがですか。

【運藤部長】

私も資料を見て評価が難しいなとは感じました。皆様のおっしゃる通り、個別に評価をしていただき、それを審議するのも一つの方法だと思いますが、この場でまたはコメントでいただいた意見を参考にしながらこちらで総合的な評価をしていく方が良いのでは、と思いますがいかがですか。

【佐藤会長】

小田野さんはいかがですか。

【小田野統括監】

部長が申し上げたとおり、皆様にいきなり事業を取りやめるといった判断を求めるのは難しいと思うので、コメントをいただきながら我々の方でも自己評価をしつつ、皆様から総合的な評価をいただいた方が進めやすいのかなと思います。

【佐藤会長】

課長さん、これくらいで良いですか。良ければお返しいたします。

【大山次長】

皆様、大変ご難儀をおかけしました。次回からはわかりやすく対応していきたいと思えます。長時間にわたりご審議をしていただき、ありがとうございます。皆様からのご意見、評価をまとめた上で担当課に公表したいと思えます。本当にありがとうございます。では、これを持ちまして第2回総合政策審議会を閉会いたします。